

4/11 ルカの福音書 24 章 13-35 節「目が開かれて」

小池宏明牧師

今朝の聖書箇所は、主イエス様がよみがえられたその日の出来事である。私たちは、どのようにして、主イエス様とお会いできるだろうか。かつての、弟子たちの体験を、私たちも体験したい。

* 近づき共に歩いて下さるイエス様

墓からイエス様の遺体が無くなったことが弟子たちに知らされた週の初めの日、足早にエルサレムを離れる二人の弟子がいた。彼らは、不安や恐れ、そして失意の中にあっただよう。17 節には、イエス様が呼びかけた時、誰だか分からないまま、「二人は暗い顔をして立ち止まった」と記録されている。自分たちが期待して従ったお方が、十字架という極悪人が処刑される道具で、あっけなく殺されてしまった。しかも、墓場の遺体も行方不明になっている。「イエスとは何者なのか」彼らは論じ合いながら歩いていた。しかし、15 節には「イエスご自身が近づいて来て、彼らと共に歩き始められた」とある。目が閉ざされている彼らに、近づき、傍にいて、共に歩いて下さる憐れみ深いイエス様なのである。

* 鈍い目が開かれる秘訣

心の目が閉ざされている彼らは、25 節のように、主イエス様から厳しい指摘を受ける。主は時として私たちを愛情深く叱責して下さるお方なのだ。27 節、主イエス様は「モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。」聖書全体は、救い主イエス・キリストを指し示している。この時、弟子たち知識を得ただけでなく、静かな聖霊体験をさせて頂いたのである。この体験は、後から振り返っても、32 節のように確かな出来事だった。「私たちの心は内で燃えていたではないか。」

私たちが、よみがえりの主イエス様とお会いする秘訣は、聖書が説き明かされることである。「主よ、お語りください。しもべは聴きます。」と少年サムエルが祈り求めたように、私たちも祈ろう。

もう一つ、よみがえりの主イエス様とお会いする秘訣は、食事である。(30、31 節)

主イエス・キリストが、食事の席で主人なのだ。主イエス様が生活の中心に居られることを認めよう。

こうして、二人の弟子は、目の前におられるのがイエス様であり、イエス様が確かによみがえって、生きておられることを知った。そして彼らは立ってすぐにエルサレムに引き返した。

主は、私たちにも、近づいて、鈍い私たちの心を受け止めて、時に忍耐し、励まして、私たち自身が気づき、立ち上がるのを、待っていてくださる。この主イエス様に感謝し、お従いして、私たちの遣わされている持ち場へと旅立とうではないか。